

対西本社会团体交渉記録

2002年12月19日 NTT神戸会館

組合側 島本委員長 加納副委員長 横林書記長 山下執行委員 佐野特別執行委員
会社側 本社人事部 北村課長 大谷主査 兵庫支店総務部 谷口担当課長

1. A～Dの配分は

組) 評価の配分は隠す必要がないと考えるが。

会) あえて公表するものではない。役員の中胸のうちに止めておいて欲しい。もし拡がればこの種の問題については話をしない。

組) 退職・再雇用に応じなかった者の約半数がD評価となっている。なぜ「満了型」に集中しているのか。

会) 本来OSに行ってもらいたかった人に対して「満了型の人」という意図は無いし、分析する気もない。

組) 比率については「目安」ということだが。

会) 会社として、任命権者が公正な形でやっている。極端なバラツキはない。C評価を基準としている。

組) 誰が判断するのか。

会) 人事担当が判断。結果として集中していることに対して極端だとは思わない。

組) 「満了型」の人のほとんどが新しい仕事である。

会) 研修に参加し、プレソリューションでやっているのは事実だが、満了型だけ選択して評価したものではない。

組) D評価が10%以内というが、「満了型」になぜ集中したのか。

会) 兵庫支店に約800名いる。10%で80人だが、越えていないと思う。そしてその結果としてD評価が何人というこ

とで出る。

組) 何らかの要因がないかぎり集中しないのでは。

会) 各部あるがそんな大きな違いはないはず。一般職一級とか横断的な人数で考えている。集中しているとは思わない。

組) 他の支店の状況も調べてほしい。

会) 調べるが、教えるかどうかわかりません。

組) 改善を求めるため、勤労意欲を高めるために評価制度があるのではないか。

会) それはその通だが、機密的な数字だし、調べてみる。

2. プレソリューション研修について

組) なぜ「満了型」の社員だけなのか。

会) 結果としてそうなった。特別視をしていない。

組) 50歳以下の、初めてソリューションに来た人がなぜ入っていないのか。

会) 必要ある人、ない人、ニーズによって違う。

組) 「満了型」に集中していることに対し、意識合わせをする必要がある。

会) 今回のプレソリューション研修については支店交渉的なものであり、この問題については支店交渉としてやっていくものである。

評価結果については、事業計画を一人ひとりへ周知して、個々の成果としてのものは団交の場ということにはならない。

担当課長との話し合いのものである。

組) 全員が目標の半分以下なら、全員Dなのか。

会) そうはならない。一次、二次評価は絶対評価、最終的には相対評価となる。

3. 支店交渉について

組) どのような形で考えているのか。

会) 支店の問題については本社工場の場で答えきれないこともある。他労組も交渉を重ねているのも事実。支店交渉における団体交渉確認事項(案)を用意しているので説明を行いたい。

組) 「団体交渉を円滑に運営するため、双方合意の上、必要により説明員を出席させることができるものとする」とあるが、我が労組からの説明員も出席できると理解してよいのか。

会) 通告制による出席となる。

組) 交渉委員の数については、出席交渉委員との理解をしているが。

会) 団体交渉確認事項については、文章修正も含めてまず窓口交渉にて行い、正式

に確認を交わしたい。

組) 了解した。修正できしだい提出する。

4. 「社長達」について

会) 就業規則は届けです。それ以外は出向規程だけだと思うが田中交渉委員が今回欠席なので説明できない。

組) 労働条件そのものではないのか。

会) 労働条件に関わるものとは言える。就業規則に明記するかどうかはあるが、違法脱法的にはやっていない。

就業規則を変更するものではないし、契約変更をするものでもない。

5. 組合事務所について

組) 要求中の組合事務所についてどうなっているのか。掲示板についてもどうなっているのか。

会) 中央ビルでは他社が入っており、現時点では場所がありません。掲示板の問題も含めて支店交渉で決めたいが、ステージの判断は預からせていただきたい。

NTTの頸腕加害責任追及と職場復帰を闘う

頸肩腕症候群に罹病させたあげくに「免職」処分

電電公社(現NTT)東京番号案内局に交換手として働いていた木下孝子さんは、1973年に職業病である頸肩腕症候群に罹病し、1975年「治療対策の一環」として、西新井電話局に配転させられました。

ところが治療対策とは名ばかりで、それまで保障されていた治療条件を一つひとつ奪いながら、職場からほうりださんばかりのイヤガラセの毎日でした。

そうして1981年当時の電電公社はついに木下さんに「免職処分」を言い渡しました。

そんななかでも「人として生きるために闘う」木下さんを支援して下さい。

木下闘争に支援を!